



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 対象読者
 - 2.3. 本書の構成
- 3. 概要
 - 3.1. アプリケーション管理機能 とは
 - 3.2. 管理可能なローコード資材
 - 3.3. ロール
 - 3.3.1. Accel Studio 管理者 (accel_studio_manager)
 - 3.4. 必要な認可リソース
 - 3.5. 用語
 - 3.5.1. アプリケーション
 - 3.5.2. アプリケーションカテゴリ
 - 3.5.3. リソース
 - 3.5.4. アプリケーションルート
 - 3.5.5. 機能カテゴリ
 - 3.5.6. 定義カテゴリ
- 4. 機能仕様
 - 4.1. アプリケーション
 - 4.1.1. アプリケーションが扱う情報
 - 4.1.2. 国際化
 - 4.1.3. アプリケーションカテゴリ
 - 4.1.4. カテゴリの階層化
 - 4.1.5. カテゴリの削除
 - 4.1.6. アプリケーションの操作
 - 4.2. リソース
 - 4.2.1. リソースが扱う情報
 - 4.2.2. 機能カテゴリ
 - 4.2.3. 国際化
 - 4.2.4. リソースの操作
 - 4.3. リソース関連図
 - 4.3.1. リソース関連図で扱う情報
 - 4.3.2. リソース関連図の動作仕様
 - 4.3.2.1. リソース関連図 表示機能
 - 4.3.2.2. リソース起点でのリソース関連図を表示
 - 4.3.2.3. リソースのバージョン情報を含めて表示
 - 4.4. アプリケーション管理ログ
 - 4.4.1. アプリケーション管理ログの種類
 - 4.4.2. インポート時の管理ログの仕様
 - 4.5. インポート・エクスポート
 - 4.5.1. インポート・エクスポートで扱う情報
 - 4.5.2. リソース情報詳細
 - 4.5.3. インポート・エクスポート時の動作仕様
 - 4.5.3.1. エクスポート
 - 4.5.3.2. インポート

- 4.5.3.3. インポート適用時のリソース差分の確認
- 4.6. アーカイブ機能
 - 4.6.1. アーカイブ機能で扱う情報
 - 4.6.2. アーカイブ機能の動作仕様
 - 4.6.2.1. アーカイブ作成
 - 4.6.2.2. アーカイブ適用
- 4.7. アプリケーション認可設定
 - 4.7.1. 認可設定時の動作
 - 4.7.2. 認可設定時の絞り込み
 - 4.7.3. リソース追加時の認可設定仕様
 - 4.7.4. リソースの閉塞状態
- 4.8. Accel Studio全文検索機能
 - 4.8.1. Accel Studio全文検索機能の仕様
 - 4.8.1.1. 全文検索設定情報の管理
 - 4.8.1.2. 全文検索設定情報の選択
 - 4.8.1.3. クローリング
- 4.9. ユーティリティ
 - 4.9.1. 自動採番
 - 4.9.1.1. 採番定義が扱う情報
 - 4.9.1.2. 国際化
 - 4.9.1.3. 採番定義カテゴリ
 - 4.9.1.4. カテゴリの階層化
 - 4.9.1.5. カテゴリの削除
 - 4.9.1.6. 採番形式
 - 4.9.1.7. 採番リセットスケジュール
 - 4.9.1.8. 現在の連番
 - 4.9.1.9. 採番定義の操作
 - 4.9.1.10. 採番の取得
 - 4.9.1.11. 採番のリセット
 - 4.9.1.12. 採番定義一覧
- 4.10. ログ管理機能
 - 4.10.1. システムログ管理機能
 - 4.10.1.1. 出力対象となる処理
 - 4.10.1.2. システムログ管理機能が扱う情報
 - 4.10.1.3. システムログ一覧画面
 - 4.10.1.4. システムログ詳細
 - 4.10.1.5. システムログの出力設定
 - 4.10.1.6. システムログの削除
 - 4.10.2. リクエストログ管理機能
 - 4.10.2.1. 出力対象となる処理
 - 4.10.2.2. リクエストログ管理機能が扱う情報
 - 4.10.2.3. リクエストログ一覧画面
 - 4.10.2.4. リクエストログ詳細
 - 4.10.2.5. リクエストログの出力設定
 - 4.10.2.6. リクエストログの削除
- 4.11. 業務テンプレート
 - 4.11.1. 業務テンプレートの種類
 - 4.11.2. ユーザが作成したテンプレートが扱う情報
 - 4.11.3. ユーザが作成したテンプレートの操作

- 4.11.4. テンプレート化対象定義一覧
- 4.11.5. テンプレートに含まれる定義情報

改訂情報

変更年月日	変更内容
2021-12-01	初版
2022-06-01	<p>第2版 下記を追加・変更しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「アプリケーション」に「アプリケーションに紐付いているリソースの定義も削除する」にチェックを入れた場合の削除時処理内容の説明を追加。
2022-12-01	<p>第3版 下記を追加・変更しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「概要」 - 「ロール」を追加。 「概要」 - 「管理可能なローコード資材」の管理対象にリソースについて、データ定義を追加。 仕様変更に伴い、IM-Workflow の資材名、機能カテゴリ、定義カテゴリの記載内容を修正。 「概要」 - 「必要な認可リソース」のデフォルトで認可の許可設定がされるロールについて「Accel Studio 管理者 ロール」を追加。 「機能仕様」 - 「アプリケーション認可設定」に認可設定時の絞り込みの仕様について追記。 仕様変更に伴い、「機能仕様」 - 「アプリケーション認可設定」の記載内容を修正。 「機能仕様」 - 「リソース」の管理対象のリソースについて、データ定義 を追加。 仕様変更に伴い、IM-Workflow の資材名、機能カテゴリ、定義カテゴリの記載内容を修正。
2023-04-01	<p>第4版 下記を追加・変更・削除しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「概要」 - 「ロール」に、Accel Studio 管理者 のサブロールの記述を追加。 アプリケーションの公開・非公開機能の撤廃にともない、「機能仕様」からページを削除。 「アプリケーション管理ログ」からアプリケーション公開・非公開ログの記述を削除。 「機能仕様」 - 「アプリケーション認可設定」に、リソースの閉塞についての記述を追加。 「機能仕様」 - 「Accel Studio全文検索機能」を追加。 「リソース」に、デバッグログ一覧画面およびメニュー設定画面への遷移に関する記述を追加。
2023-10-01	<p>第5版 下記を追加・変更・削除しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「機能仕様」 - 「インポート・エクスポート」に、差分表示、リソースについての記述を追加。 「機能仕様」 - 「リソース」の管理対象のリソースについて、ユーティリティ を追加。 「機能仕様」 - 「業務テンプレート」に、業務テンプレートについての記述を追加。 「機能仕様」 - 「アーカイブ機能」を追加。 「機能仕様」 - 「Accel Studio全文検索機能」のアプリケーションの条件 から Accel Studioのテンプレートの「シンプルなワークフロー」から作成 を削除。 「機能仕様」 - 「ユーティリティ」を追加。 「機能仕様」 - 「リソース関連図」を追加。 「機能仕様」 - 「ログ管理機能」を追加。

はじめに

項目

- 本書の目的
- 対象読者
- 本書の構成

本書の目的

本書では アプリケーション管理機能 の機能概要と仕組みの詳細について説明します。
説明範囲は以下の通りです。

- アプリケーション管理機能 の概要と用語
- アプリケーション管理機能 の機能仕様および機能詳細

対象読者

本書では次の開発者を対象としています。

- アプリケーション管理機能 の仕組みを理解したい

本書の構成

本書は次の構成で説明しています。

- **概要**
アプリケーション管理機能 の全体像、および、本書で利用する用語について説明します。
- **機能仕様**
アプリケーション管理機能 の提供する各機能の詳細な仕組みについて説明します。

概要

項目

- アプリケーション管理機能 とは
- 管理可能なローコード資材
- ロール
- 必要な認可リソース
- 用語

アプリケーション管理機能 とは

アプリケーション管理機能 とは、intra-mart Accel Platform の提供するローコード開発機能を統合し、各機能で作成されたローコード資材をアプリケーション単位で包括的に管理するための機能です。

アプリケーション管理機能 の特徴は以下の通りです。

- ローコード資材をアプリケーション単位で管理します。
- アプリケーション単位で認可の設定を行います。
- ローコード資材の変更履歴を管理します。
- アプリケーション単位でのインポート・エクスポートを行います。

管理可能なローコード資材

モジュール名	資材名	機能カテゴリ	定義カテゴリ
IM-BloomMaker	コンテンツ定義	画面	画面コンテンツ
	ルーティング定義	公開URL	画面URL
IM-LogicDesigner	ロジックフロー定義	ロジック	ロジックフロー
	ロジックフロールーティング定義	公開URL	APIのURL
	トリガ定義	ロジック	ロジックトリガ
IM-Workflow	コンテンツ定義/フロー定義/ルート定義	ワークフロー	ワークフロー定義
ViewCreator	データ参照	画面	クエリのデータ参照
	ルーティング定義	公開URL	クエリのURL
	クエリ定義	ロジック	クエリ
IM-Repository	エンティティ	データ定義	データ定義



コラム

ワークフロー定義とは

2022 Winter(Freesia) より追加された定義カテゴリです。

2022 Spring(Eustoma) 以前ではコンテンツ定義、フロー定義、ルート定義として管理していました。

詳しくは「[リソース](#)」を参照してください。

モジュール名	資材名	機能カテゴリ	定義カテゴリ
IM-Workflow	コンテンツ定義	ワークフロー	コンテンツ定義
	フロー定義	ワークフロー	フロー定義
	ルート定義	ワークフロー	ルート定義

ロール

アプリケーション管理機能 では、標準で以下のロールが用意されています。

- Accel Studio 管理者

Accel Studio 管理者 (accel_studio_manager)

アプリケーション管理機能 で開発をする権限を有するロールです。

アプリケーション管理機能 画面で管理するローコード資材の確認や編集ができます。

Accel Studio 管理者 ロールは以下のロールをサブロールに持っています。

- IM-BloomMaker 管理者
- LogicDesigner 管理者
- IM-Repository 管理者
- ViewCreator管理者
- メニュー管理者 (※ 2023 Spring(Gerbera) 以降)

アプリケーション管理機能 からは使用しない各機能の細かな機能については権限を有していないものもあるため、必要に応じて各ローコード開発製品の管理者ロールを併用してください。

必要な認可リソース

アプリケーション管理機能 では、デフォルトで テナント管理者 ロールと Accel Studio 管理者 ロールに認可の許可を設定しています。

この認可設定はアプリケーション管理機能を利用するためのものであるため、ローコード資材の追加や更新を行うためには、各ローコード開発製品の認可の許可を設定する必要があります。

独自の認可設定を行い、アプリケーション管理機能を利用する場合は、認可設定に注意してください。

用語

アプリケーション

アプリケーション管理機能 で管理される単位の総称です。

固有の名前や備考情報と内包するローコード資材との関連情報を持ちます。

アプリケーションカテゴリ

アプリケーションに設定する分類情報を指します。

開発者は作成したアプリケーションに対して、その用途や適用範囲を示す情報としてアプリケーションカテゴリを設定します。

リソース

アプリケーションを構成するローコード資材の総称を指します。

アプリケーションに対して複数のリソースを関連付けることが可能です。

リソースとして管理されるローコード資材は [管理可能なローコード資材](#)にある通りです。

アプリケーションルート

アプリケーションと関係するリソースの中で、アクセスを管理するものを指します。

画面のURLやAPIのURLなど、ルーティングを管理するリソースがこれに該当します。

機能カテゴリ

リソースの種類を動作内容により分類するカテゴリです。

機能カテゴリは下記の通りです。

- 画面
 - 表示項目など、画面を構成するリソースが分類されるカテゴリです。
- 公開URL
 - ルーティング内容を管理するカテゴリです。
 - アプリケーションルートに該当するリソースが分類されます。
- ロジック
 - ビジネスロジックを管理するリソースが分類されるカテゴリです。
- ワークフロー
 - IM-Workflow の資材が管理されるカテゴリです。
- データ定義
 - IM-Repository の資材を管理するカテゴリです。

定義カテゴリ

リソースに対応するローコード製品の資材名を分類するカテゴリです。

[管理可能なローコード資材](#)の資材名を [アプリケーション管理機能](#) では定義カテゴリとして別名で呼称します。

機能仕様

アプリケーション

アプリケーションは、アプリケーション管理機能における管理対象の単位であり、複数のリソースを内包します。

アプリケーションが扱う情報

アプリケーションは下記の情報を管理します。

- **アプリケーションID**
 - アプリケーションを一意に識別するためのIDです。
- **名前**
 - アプリケーションの名前です。
- **備考**
 - アプリケーションの内容に関する備考です。
- **アプリケーションカテゴリ**
 - アプリケーションを分類するカテゴリです。

国際化

アプリケーションの名称は、各ロケール用（製品標準では、日本語、英語、中国語）の表示名と標準表示名を持ちます。

原則としてアプリケーション管理機能では、ユーザのロケールに合わせた表示名を利用します。

対象のユーザのロケールに合致する表示名が定義されていない場合、アプリケーション管理機能はその代替として標準表示名を利用します。

アプリケーションカテゴリ

アプリケーションカテゴリは、アプリケーションの利用用途や適用範囲を分類するための情報です。

アプリケーション管理機能ではアプリケーションの管理・分類するための情報としてアプリケーションカテゴリを利用します。

カテゴリの階層化

アプリケーションカテゴリは階層構造を設定できます。

アプリケーションカテゴリに親カテゴリを設定することで、設定したカテゴリの小カテゴリとして設定され、階層構造を持ちます。

カテゴリの削除

アプリケーションカテゴリの削除には、物理削除が利用されます。

またアプリケーションカテゴリは、下記の条件の場合のみ削除可能です。

- 削除対象のカテゴリの属するアプリケーションが存在しない場合
- 削除対象のカテゴリに小カテゴリが存在しない場合

アプリケーションの操作

- **作成**
 - アプリケーション作成機能を利用して作成可能です。
 - 空のテンプレートを利用して、リソースの紐付いていない状態からゼロベースでアプリケーションを作成でき

ます。

- アプリケーションは、アプリケーションカテゴリに属する必要があります。

■ 更新

- アプリケーション情報の更新ができます。
 - アプリケーション名、備考、所属するアプリケーションカテゴリの更新が可能です。

■ 削除

- アプリケーション情報が物理削除されます。
 - アプリケーション管理ログも同様に物理削除されます。
 - アプリケーション削除時にアプリケーションカテゴリは削除されません。
 - アプリケーションに関連するリソース情報
 - 「アプリケーションに紐付いているリソースの定義も削除する」にチェックを入れた場合、リソース情報に紐づくリソースの定義も削除されます。
 - 下記の場合、リソースの定義は削除されず、Accel Studio のアプリケーションとリソースの関連情報のみ削除されます。
 - 他のアプリケーションに対象のリソースの定義リソースが紐付いている場合
 - リソースの定義が、削除対象のアプリケーションに紐づかない別リソースの定義から参照されており、削除が実行できない場合
 - データ定義のエンティティ、また、それに紐づくテーブル、内包するエンティティの項目

コラム

リソースの定義とは

リソースの定義とは、リソースの元となる各ローコードアプリケーションの資材のことです。

アプリケーション管理機能では、アプリケーションに紐づく各ローコードアプリケーションの資材をリソースとして管理します。

各ローコードアプリケーションの資材から情報を同期し、アプリケーション管理機能のリソースとして情報を管理しています。

注意

IM-LogicDesigner のロジックフロー定義の削除について

IM-LogicDesigner のリソースの定義であるロジックフロー定義が削除の対象である場合、利用されているユーザ定義が削除される場合があります。

ユーザ定義が複数のロジックフロー定義から参照されており、削除対象のロジックフローのみが参照している場合に削除されます。

また、フロー定義はアプリケーションに紐付けられ、アプリケーション管理機能でリソースとして管理されているものが削除対象です。

そのため、リソースとして管理されているロジックフロー定義から別の管理外のロジックフロー定義を呼び出している場合、管理外のロジックフロー定義、またそのロジックフロー定義に利用されているユーザ定義は削除されません。

■ インポート

- アプリケーションのインポートにより、アプリケーションの新規作成、更新ができます。
- 詳しい内容は、「[インポート・エクスポート](#)」を参照してください。

■ アーカイブ機能

- アプリケーションの構成情報、リソース情報をアーカイブ情報として保存、任意のタイミングでアーカイブ情報を適用し、アプリケーションをその時点の状態に戻すことができます
- 詳しい内容は、「[アーカイブ機能](#)」を参照してください。

リソース

アプリケーション管理機能では、アプリケーションに紐づく各ローコードアプリケーションの資材をリソースとして管理します。

各ローコードアプリケーションの資材から情報を同期し、アプリケーション管理機能のリソースとして情報を管理していません。

- リソースが扱う情報
- 機能カテゴリ
- 国際化
- リソースの操作

リソースが扱う情報

リソースが扱う情報は以下の通りです。

- **リソース名**
 - リソースの名称
- **備考**
 - リソースの内容に関する備考
- **機能カテゴリ**
 - リソースを分類するカテゴリ
- **定義カテゴリ**
 - リソースの種別を表す定義名

機能カテゴリ

リソースは機能毎に機能カテゴリでグルーピングされています。

機能カテゴリの種類は以下の通りです。

- **画面**
 - アプリケーションの画面を構成するリソースを管理するカテゴリです。
- **公開URL**
 - アプリケーションの画面やロジックにアクセスするためのURLやルーティングを管理するリソースのカテゴリです。
- **ロジック**
 - アプリケーションのビジネスロジックを構成するリソースを管理するカテゴリです。
- **ワークフロー**
 - IM-Workflow のリソースを管理するカテゴリです。
- **データ定義**
 - IM-Repository のリソースを管理するカテゴリです。
- **ユーティリティ**
 - Low-codeユーティリティ のリソースを管理するカテゴリです。

各モジュールの資材はアプリケーション管理リソースとして下記のように管理されています。

モジュール名	資材名	機能カテゴリ	定義カテゴリ
IM-BloomMaker	コンテンツ定義	画面	画面コンテンツ
	ルーティング定義	公開URL	画面URL
IM-LogicDesigner	ロジックフロー定義	ロジック	ロジックフロー

モジュール名	資材名	機能カテゴリ	定義カテゴリ
	ロジックフロールーティン グ定義	公開URL	APIのURL
	トリガ定義	ロジック	ロジックトリガ
IM-Workflow	コンテンツ定義/フロー定 義/ルート定義	ワークフロー	ワークフロー定義
ViewCreator	データ参照	画面	クエリのデータ参照
	ルーティング定義	公開URL	クエリのURL
	クエリ定義	ロジック	クエリ
IM-Repository	エンティティ	データ定義	データ定義
Low-codeユーティリティ	自動採番	ユーティリティ	自動採番

コラム

ワークフロー定義とは

2022 Winter(Freesia) より追加された定義カテゴリです。

2022 Spring(Eustoma) 以前ではコンテンツ定義、フロー定義、ルート定義として管理していました。

モジュール名	資材名	機能カテゴリ	定義カテゴリ
IM-Workflow	コンテンツ定義	ワークフロー	コンテンツ定義
	フロー定義	ワークフロー	フロー定義
	ルート定義	ワークフロー	ルート定義

それらを1つに集約した定義カテゴリ「ワークフロー定義」として管理できるようになりました。

また、ワークフロー定義ではAccel Studioに特化した専用管理画面を利用できます。

ワークフロー定義には、「テナント環境セットアップ」または、「アプリケーションインポート」にて自動的に移行されます。

ただし、制限事項に抵触している場合には移行されません。

制限事項を解消後「アプリケーションエクスポート」し、再度「アプリケーションインポート」を行ってください。

制限事項については、「[制限事項 - アプリケーション管理](#)」を参照してください。

コラム

「公開URL」タブからメニュー設定画面へ、「ロジック」タブからデバッグログ一覧画面へ遷移できます。

デバッグログ一覧画面には、遷移元のアプリケーションに紐づくロジックフローのデバッグログのみ表示します。

注意

IM-Workflow のリソースの新規追加について

IM-Workflow のリソースの新規追加はアプリケーションの自動生成機能経由でのみ可能です。

作成したアプリケーションに任意の IM-Workflow リソースを追加することはできません。

国際化

アプリケーション管理機能 のリソースでは、各モジュール資材で国際化に対応している場合、国際化情報を利用可能です。

リソースの操作

- **新規作成**
 - アプリケーション管理画面のリソース作成画面から新規でリソースを作成できます。
 - 作成したリソースは自動的にアプリケーションに関連付けられます。
- **関連追加**
 - 既存のローコード資材をアプリケーションの管理対象であるリソースとして関連付けることができます。
- **関連削除**
 - アプリケーションからリソースの関連を削除します。
 - ローコード資材の本体は削除されません。
- **削除**
 - 各ローコード資材の本体が削除されたときにアプリケーション管理のリソースは削除されます。
- **インポート**
 - アプリケーションのインポートにより、リソースの新規作成、更新、関連追加、関連削除を行います。
 - 詳しい内容は、「[インポート・エクスポート](#)」を参照してください。

リソース関連図

アプリケーション管理機能のリソース関連図では、アプリケーションと紐づいているすべてのリソース同士の関連をリソース関連図として表示します。

- [リソース関連図で扱う情報](#)
- [リソース関連図の動作仕様](#)

リソース関連図で扱う情報

リソース関連図は下記の情報を関連として表示します。

- **アプリケーションと紐づくリソース情報**
 - アプリケーションで扱うことができるリソース情報の詳細については「[リソース](#)」を参照してください。
- **アプリケーションと紐づくリソース情報が利用するリソース情報**
 - アプリケーションと紐づくリソース情報が利用するリソース（関連リソース）も関連図に表示します。
 - 関連リソースのうち、アプリケーションと紐づかないリソース情報は灰色の背景色で表示されます。
 - アプリケーションと紐づかないリソース情報の関連リソースは関連情報として扱わず、関連図に表示されません。
- **アプリケーションと紐づくリソース情報のバージョン情報**
 - アプリケーションに紐づくリソース情報が複数バージョンを持つ場合、画面上の設定に応じて全バージョンの関連を表示可能です。

コラム

関連リソースの例は以下があります。

起点となるリソースから [管理可能なローコード資材](#) に記載している各リソースへ関連づいている場合、関連リソースとして扱います。

- ロジックフローの「フロー呼び出し」タスクで呼び出し先に指定しているロジックフロー
- IM-BloomMakerの「ルーティング定義」で指定されているコンテンツ定義

リソース関連図の動作仕様

アプリケーション管理機能のリソース関連図機能の動作仕様は、以下の通りです。

リソース関連図 表示機能

アプリケーションと紐づいているすべてのリソース同士の関連をリソース関連図として表示します。複数のバージョンを持つリソース情報では、最新のバージョン情報をもとに関連を表示します。

リソースを選択すると、右ペインにリソースの基本情報が表示されます。アプリケーションに直接紐づいているリソースの場合、右ペインに編集アイコンが表示されます。この編集アイコンから各リソース編集画面へ遷移し、参照および編集が可能です。

アプリケーションと直接紐づかないリソースの場合、リソースの背景色はグレーで表示されます。

さらに、以下の2種類のボタンによって関連図の表示内容を切り替えることが可能です。

リソース起点でのリソース関連図を表示

リソースを「起点」として選択し、起点に紐づくアプリケーションとリソース情報を表示します。アプリケーションに直接紐づいているリソース情報のみ利用可能です。

リソースのバージョン情報を含めて表示

リソース関連図に表示されたリソースのすべてのバージョン情報と、各バージョンに紐づくリソースを表示します。「リソースのバージョン情報を含めず表示」を押下すると、元のバージョン情報を含まないリソース関連図が表示されます。



コラム

リソース関連図の背景をドラッグ&ドロップすることで、リソース関連図を横スクロールできます。

アプリケーション管理ログ

アプリケーション管理ログでは、アプリケーションの情報、構成情報の変更、内包するローコード資材に変更があったときにログとして記録を行う機能です。

アプリケーションに対して特定の操作を行った際に、実行ユーザ、実行日時を記録します。

リソースを複数のアプリケーションが共有していた場合、複数のリソースにアプリケーション管理ログが記録されます。

- [アプリケーション管理ログの種類](#)
- [インポート時の管理ログの仕様](#)

アプリケーション管理ログの種類

アプリケーション管理ログには以下の種類があります。

- **アプリケーション作成ログ**
 - アプリケーションの作成時に記録されます。
- **アプリケーション更新ログ**
 - アプリケーションの名前、備考、所属カテゴリを更新したときに記録されます。
- **アプリケーション認可更新ログ**
 - アプリケーションの認可設定が変更されたときに記録されます。
- **アプリケーションインポートログ**
 - アプリケーションがインポートされたときに記録されます。
- **リソース関連追加ログ**
 - アプリケーションに新規でリソースが関連付けられたときに記録されます。
- **リソース関連削除ログ**

- アプリケーションからリソースの関連が削除されたときに記録されます。
- リソース作成ログ
 - アプリケーション管理機能 経由で新規でリソースを作成したときに記録されます。
- リソース更新ログ
 - アプリケーションに関連付けられているリソースが更新されたときに記録されます。
- リソース削除ログ
 - アプリケーションに関連付けられているリソースが削除されたときに記録されます。
- リソース独自のログ
 - リソース毎の固有の操作で独自にログが記録されます。
 - IM-Workflow
 - IM-Workflow のリソースを含むアプリケーションをインポートした場合、インポート時に登録情報で補完された内容をログとして記録します。
 - アプリケーションのインポート、テナント環境セットアップによってワークフロー定義への移行処理が行われた場合、移行処理の結果をログとして記録します。

インポート時の管理ログの仕様

アプリケーション管理機能 のインポート・エクスポート機能では、アプリケーション管理ログは管理されていないため、アプリケーションを作成した環境から別環境には移行できません。

インポート・エクスポート

アプリケーション管理機能 のインポート・エクスポート機能では、アプリケーション単位で内包するローコード資材を含めて統合的なインポート、エクスポートを行います。

- [インポート・エクスポートで扱う情報](#)
- [リソース情報詳細](#)
- [インポート・エクスポート時の動作仕様](#)

インポート・エクスポートで扱う情報

インポート・エクスポートでは以下の情報を扱います。

- **アプリケーション情報**
 - アプリケーション名、備考（国際化情報）を含みます。
 - アプリケーションのリソース関連情報を含みます。
- **アプリケーションカテゴリ**
 - カテゴリ名（国際化情報）を含みます。
- **リソース情報**
 - 各ローコード資材別にエクスポートされた資材を含みます。
 - 内部のファイル形式やフォーマットはローコード製品毎に異なります。



注意

アプリケーション管理ログについて
 アプリケーション管理機能 のインポート・エクスポート機能では、アプリケーション管理ログは管理されていません。
 アプリケーションを作成した環境から別環境には移行できません。

リソース情報詳細

各製品の定義情報とリソース情報との扱いについて説明します。

アプリケーションでは、各製品の定義情報を下記の3つに分けています。

- アプリケーションのリソースとして管理
- アプリケーションのリソースとして管理されないが、リソースに内包され、エクスポート/インポート対象※1
- アプリケーションのリソースと関連は持つが、リソースに内包せず、エクスポート/インポート対象外※2

対象製品	アプリケーションのリ ソースとして管理	※1	※2	備考
IM-BloomMaker	コンテンツ定義			
	ルーティング定義			
IM-LogicDesigner	フロー定義			
	ルーティング定義			
	トリガ定義			
		ユーザ定義		
IM-Workflow	ワークフロー定義			フロー定義/ルート定 義/コンテンツ定義を セットで、1つのワー クフロー定義として管 理する。
			ルート定義	テンプレート置換用
			ルール定義	
			案件プロパティ定義	
			メッセージ定義	
				全文検索設定
				フローグループ定義
				一覧表示パターン定義
				管理グループ定義
	IM-Repository	エンティティ		
			辞書項目	
			列挙型	
ViewCreator	クエリ			
	データ参照			
	ルーティング定義			
ユーティリティ	自動採番定義			

インポート・エクスポート時の動作仕様

アプリケーション管理機能 のインポート・エクスポート機能の動作仕様は、以下の通りです。

エクスポート

エクスポート機能は、「[インポート・エクスポートで扱う情報](#)」に記載した内容を、全てのアプリケーション管理機能に関するデータを出力します。アプリケーション管理ログはエクスポートされません。

インポート

インポート機能は、エクスポート機能により、アーカイブされたZIPファイルをもとに、アーカイブファイルに含まれる全てのアプリケーション管理機能に関するデータを取り込みます。

インポートの方式にはアプリケーションの存在状態によって内部的に制御されています。インポート方式の選択は行えません。

ローコード資材のリソースも同様に存在していなければ新規作成、存在していた場合は更新処理が行われます。

なお、アプリケーションカテゴリは存在していない場合のみ新規作成され、更新処理は行われません。



注意

インポートによるアプリケーションの更新について
全ての情報の更新を行うため、各ローコード資材の更新も同時に行われます。
上書された情報を元に戻すことはできませんので注意してください。

インポート適用時のリソース差分の確認

下記のリソースが差分表示に対応しています。

インポート時にリソースに差分がある場合、インポート適用画面から各リソースの差分確認画面で差分を確認できます。

対象製品	対象リソース
IM-BloomMaker	コンテンツ定義
IM-LogicDesigner	フロー定義
IM-Workflow	ワークフロー定義
IM-Repository	エンティティ

アーカイブ機能

アプリケーション管理機能のアーカイブ機能では、アプリケーションの構成情報、リソースの状態をアーカイブとして保存し、任意のタイミングでアーカイブを適用することでアプリケーションの状態をアーカイブ作成時点に戻すことができます。

- [アーカイブ機能で扱う情報](#)
- [アーカイブ機能の動作仕様](#)

アーカイブ機能で扱う情報

アーカイブ機能で扱われる情報は、内部的にアプリケーションインポート、エクスポート機能利用するため、扱われる情報はアプリケーションインポート、エクスポート機能に準じます。詳しい内容は、「[インポート・エクスポートで扱う情報](#)」を参照してください。

アーカイブ機能の動作仕様

アプリケーション管理機能のアーカイブ機能の動作仕様は、以下の通りです。

アーカイブ作成

アーカイブ作成では、内部的にアプリケーションエクスポート機能を利用します。アーカイブ作成時に保存されるアーカイブ

情報はアプリケーションエクスポート機能によって取得できるデータをアプリケーション内部に保持します。

そのため、作成されるアーカイブはアプリケーションエクスポートの機能に準じます。

アーカイブ適用

アーカイブ適用では、内部的にアプリケーションインポート機能を利用します。そのため、アーカイブ適用時の仕様はアプリケーションインポート機能に準じます。

ただし、アーカイブ適用時にはアプリケーションカテゴリは更新されません。

アプリケーション認可設定

アプリケーション認可設定では、作成したアプリケーションのリソース単位で認可設定を行います。認可マスタ画面から認可設定を編集した場合、本項目で説明するアプリケーション認可設定に反映され、同様にアプリケーション認可設定で編集した内容も、認可マスタ画面の認可設定に反映されます。

以降、縦軸を「リソース」、横軸を「認可サブジェクト」と呼称します。

コラム

アプリケーションを新規作成した際に、紐づくリソースに対して、テナント管理者、および、Accel Studio管理者がデフォルトでアクセス許可されます。

認可設定時の動作

設定変更は認可設定画面のグリッド上で行うことができます。

操作手順は以下の通りです。

1. グリッド上で、認可を変更したいセルをクリックします。
2. 禁止状態（赤い×マーク）から許可状態（緑の許可マーク）に変更されたことを確認します。
または、許可状態から禁止状態に変更されたことを確認します。
3. 更新ボタンをクリックします。
4. 認可が「許可」、または、「禁止」に変更されます。

認可設定時の絞り込み

絞込条件エリアを開き、表示するリソース、および、認可サブジェクトを検索して絞り込むことができます。

- リソース（縦軸）の絞込 / 認可サブジェクト（横軸）の絞込
 - テキストボックスに入力した内容に該当するリソース、および、認可サブジェクトが表示されます。
- 許可のリソースのみ表示
 - チェックをつけると、認可サブジェクトに対して1つでも許可されているリソースが表示されます。
- 変更中のリソースのみ表示
 - チェックをつけると、設定変更中のリソースのみが表示されます。

→
↻

更新
⋮

Accel Studio 管理者	FileExchange 管理者	ViewCreator 管理者	LogicDesigner 管理者	TableMaintenance 管理者
▼	▼	▼	▼	▼
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗

絞り込み
リソース（縦軸）の絞り込

認可サブジェクト（横軸）の絞り込

許可のリソースのみ表示

変更中のリソースのみ表示

クリア

図：「アプリケーション認可設定」画面 - 絞り込み

リソース追加時の認可設定仕様

アプリケーションにリソースを追加した場合、認可マスタ画面で設定されている認可設定が反映されます。同一アプリケーション内の他リソースに設定されている認可は自動設定されないため、必要な場合は個別に認可を設定してください。



コラム

アプリケーション認可設定画面から認可サブジェクトを追加、および、削除することはできません。サブジェクトに対する更新は認可マスタ設定画面から行ってください。

リソースの閉塞状態

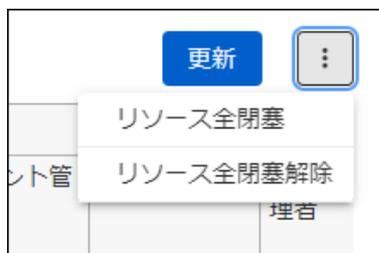
リソースを閉塞状態にすると、設定されている認可の状態にかかわらず機能を利用できない状態にできます。閉塞されているリソースは、リソース名の先頭に閉塞を示すアイコンが表示され、リソース名が赤文字で表示されます。閉塞されているリソースに対しても、認可設定の変更は可能です。

リソース	認証		組織
	ゲストユーザ	認証済みユーザ	サンプル会社
	▼	▼	▼
【画面URL】			
⊘ TEST 登録画面 >	✖	✖	✔
TEST 参照画面 >	✖	✖	✔
TEST 一覧画面 >	✖	✖	✔
⊘ TEST 編集画面 >	✖	✖	✔
【APIのURL】			

図：「アプリケーション認可設定」画面 - 閉塞状態のリソース

アプリケーションに紐づくリソース全てを閉塞する、または、閉塞解除する手順は以下の通りです。

1. 画面右上のボタンをクリックすると、「リソース全閉塞」「リソース全閉塞解除」メニューが表示されます。望んだ操作のメニューをクリックします。



図：「アプリケーション認可設定」画面 - 「リソース全閉塞」「リソース全閉塞解除」メニュー

2. 確認ダイアログが表示されます。
このとき、リソースが他アプリケーションと共有されている場合は、その旨を表すメッセージが表示されます。問題がなければ、「閉塞」、または、「閉塞解除」ボタンをクリックします。
3. リソースすべてが閉塞、または、閉塞解除されます。

コラム

アプリケーション認可設定画面では、リソースを個別に閉塞、または、閉塞解除することはできません。個別のリソースに対する閉塞状態の変更は、認可マスタ設定画面から行ってください。

Accel Studio全文検索機能

IM-ContentsSearch for Accel Studio（以下、Accel Studio全文検索機能）は、IM-Workflow全文検索機能を拡張し、アプリケーションのリソースのワークフロー定義で申請／処理が行われた案件のユーザデータを全文検索する機能です。

コラム

当該機能は2023 Spring(Gerbera)より追加されました。



コラム

当該機能はIM-ContentsSearchが必要です。

IM-ContentsSearchのライセンスについての詳細は以下のドキュメントを参照してください。

- 「IM-ContentsSearch for Accel Platform リリースノート」 - 「ライセンスについて」



コラム

当該機能のベースとなるIM-Workflow全文検索機能の詳細は「IM-ContentsSearch for IM-Workflow仕様書」を参照してください。

Accel Studio全文検索機能の仕様

全文検索設定情報の管理

全文検索設定情報の管理は、アプリケーション／ワークフロー定義単位です。以下の条件を満たす情報が管理対象です。

- アプリケーションの条件
 - エンティティがリソース紐づけ
- ワークフロー定義の条件
 - ワークフロー定義が上記のアプリケーションのリソース紐づけ



注意

リソース紐づけの解除について

エンティティに対してリソースの紐づけの解除を行った場合、全文検索設定情報の管理情報は削除しません。

全文検索設定情報の選択

全文検索設定情報の選択は、アプリケーション／ワークフロー定義単位で管理するリソースに対して、エンティティ／エンティティ項目単位です。

以下の条件を満たす情報が選択対象です。

- エンティティの条件
 - エンティティ項目にユーザデータIDが以下の内容で定義
 - 主キー
 - データベースの物理名が**user_data_id**
 - データ定義の検索条件に条件が**完全一致**
- エンティティ項目の条件
 - エンティティ項目のうち、以下の**Javaのデータ型**で定義
 - **Integer**
 - **Long**
 - **Float**
 - **Double**
 - **BigInteger**
 - **BigDecimal**
 - **String**



コラム

アプリケーションのリソースに複数のエンティティが存在した場合について

アプリケーションのリソースに複数のエンティティが存在した場合、条件を満たすエンティティのすべてが選択できます。

例:

Accel Studioのテンプレートの「シンプルなワークフロー」から以下のリソースを作成

アプリケーション:"application01"

ワークフロー定義:"workflow01"

エンティティ:"entity01"

アプリケーション:"application01"で以下のリソースを追加

ワークフロー定義:"workflow02"

エンティティ:"entity02"

アプリケーション:"application01"/ワークフロー定義:"workflow01"単位で全文検索設定情報の選択を行う際、エンティティ:"entity01"とエンティティ:"entity02"が対象です。



コラム

ユーザデータIDについて

エンティティ項目にユーザデータIDはJavaのデータ型がStringですが、選択できません。



注意

リソース紐づけの解除について

エンティティに対してリソースの紐づけの解除を行った場合、全文検索設定情報の選択情報は削除しません。

クローリング

基本仕様は「[IM-ContentsSearch for IM-Workflow仕様書](#)」を参照してください。



コラム

クローリング対象について

クローリング対象の情報は、ワークフロー定義で申請/処理が行われた案件のシステム案件IDに紐づくユーザデータIDから取得できた情報です。

上記の情報のうち、全文検索設定情報の選択で指定したエンティティ/エンティティ項目と一致するものだけがクローリングの対象にします。



コラム

2022 Winter(Freesia)のAccel Studioのテンプレートの「シンプルなワークフロー」から作成されたアプリケーションのエンティティ項目の添付ファイルについて

このエンティティ項目はJava変数名がfileKeyListでJavaのデータ型がStringです。

上記のエンティティ項目は、添付ファイルとして、クローリングします。

ユーティリティ

ユーティリティは、汎用的な機能の集合体です。

- 自動採番



コラム

ユーティリティは2023 Autumn(Hollyhock)より追加されました。
自動採番は2023 Autumn(Hollyhock)より追加されました。

自動採番

自動採番は、採番定義を管理する機能、連番値を管理する採番簿から採番を取得する機能と連番値を変更する機能を提供します。

採番定義が扱う情報

採番定義は下記の情報を管理します。

- **採番定義ID**
 - 採番定義を一意に識別するためのIDです。
- **採番定義名**
 - 採番定義の名前です。
- **説明**
 - 採番定義の内容に関する説明です。
- **採番定義カテゴリ**
 - 採番定義を分類するカテゴリです。
- **採番形式**
 - 採番の形式の設定です。
- **採番リセットスケジュール**
 - 採番の形式の設定です。
- **現在の連番**
 - 採番の現在の連番に関する設定です。

国際化

採番定義の名称は、各ロケール用（製品標準では、日本語、英語、中国語）の表示名と標準表示名を持ちます。原則として採番定義管理機能では、ユーザのロケールに合わせた表示名を利用します。対象のユーザのロケールに合致する表示名が定義されていない場合、採番定義管理機能はその代替として標準表示名を利用します。

採番定義カテゴリ

採番定義カテゴリは、採番定義の利用用途や適用範囲を分類するための情報です。採番定義管理機能では採番定義の管理・分類するための情報として採番定義カテゴリを利用します。

カテゴリの階層化

採番定義カテゴリは階層構造を設定できます。採番定義カテゴリに親カテゴリを設定することで、設定したカテゴリの小カテゴリとして設定され、階層構造を持ちます。

カテゴリの削除

採番定義カテゴリの削除には、物理削除が利用されます。また採番定義カテゴリは、下記の条件の場合のみ削除可能です。

- 削除対象のカテゴリの属する採番定義が存在しない場合
- 削除対象のカテゴリに小カテゴリが存在しない場合

採番形式

採番形式は、採番要素を組み合わせ、採番の書式を設定する項目です。

採番要素は下記の項目を提供します。

- 連番
 - 当該要素は1つ設定できます。
 - 開始番号、表示桁数、増分値が設定できます。
- 文字列
 - 当該要素は複数設定できます。
 - 任意の文字を設定できます。
- 区切り文字
 - 当該要素は複数設定できます。
 - - (ハイフン)、_ (アンダーバー)、/ (スラッシュ)、. (ドット) から選択できます。
- 日付形式
 - 当該要素は複数設定できます。
 - yyyy/MM/dd、yy/MM/dd、yyyy/MM、yy/MM、MM、ddから選択できます。
- 年度
 - 当該要素は複数設定できます。
 - 開始月
 - 年度の開始する月を設定できます。
 - 年度の種類
 - 西暦、和暦から選択できます。
 - 形式
 - yyyy、yyから選択できます。

採番リセットスケジュール

採番リセットスケジュールは、採番簿から採番を取得した際に、採番簿の連番の値を初期化する設定です。

- 採番リセット周期
 - 設定する、設定しないから選択できます。
 - 設定しない場合は、採番簿から採番を取得した際に、採番簿の連番の値を初期化しません。
- 繰り返し
 - 採番リセット周期が設定する場合、毎年、毎月、毎日から選択できます。
- 月
 - 採番リセット周期が設定する、繰り返しが毎年の場合、月を設定できます。
- 日
 - 採番リセット周期が設定する、繰り返しが毎年または毎月の場合、日を設定できます。

コラム

採番簿の連番の値を初期化する契機について

当該設定において、採番リセット周期を設定する、という設定を行った場合、採番形式に日付形式、年度の有無に関係なく、採番簿から採番を取得する内部処理で採番簿の連番の値を初期化します。

取得する採番が重複しないよう設計してください。

また、初期化する日付の判定は、システム日時点を基準として、時間は 00:00:00 として判定します。

i コラム

存在しない日を設定した場合

当該設定において、採番リセット周期を設定する、かつ、存在しない日を設定した場合、採番簿から採番を取得する内部処理では、当月の末日として取り扱います。

例えば、繰り返しに「毎月」、日に「31」と設定した場合、1月の場合は31日で処理しますが、4月の場合は30日で処理します。

現在の連番

採番簿で管理する連番の値を管理します。

- 現在番号
 - 採番簿で管理する連番の値を表示します。
- 現在番号の変更
 - 採番簿で管理する連番の値を変更します。

採番定義の操作

- 作成
 - 採番定義の作成ができます。
 - 採番定義ID
 - 採番定義名
 - 説明
 - 採番定義カテゴリ
 - 採番形式
 - 採番リセットスケジュール

i コラム

作成時に設定できない項目

作成時には 現在の番号 は設定できません。
採番簿は作成されません。

i コラム

採番簿が作成されるタイミング

採番定義を作成した後、採番簿から採番を初めて取得したときに、採番簿が作成されます。

- 更新
 - 採番定義の更新ができます。
 - 採番定義名
 - 説明
 - 採番定義カテゴリ
 - 採番形式
 - 採番リセットスケジュール
 - 現在の連番



コラム

更新時に変更できない項目

更新時には 採番定義ID、採番形式の連番の開始番号、採番定義カテゴリのカテゴリ名 は変更できません。



注意

更新した後、取得する採番に影響がある項目

採番形式の採番要素

採番が生成済みの場合、採番形式設定を変更すると次回から生成済みの採番と異なる形式の採番が生成されます。

採番形式の連番の表示桁数

表示桁数を減らすと生成できる採番の個数が減ります。生成できる採番の上限を超えると採番が生成できません。

採番形式の連番の増分値

増分値を増やすと生成できる採番の個数が減ります。生成できる採番の上限を超えると採番が生成できません。

採番リセットスケジュール

以下の変更を行った場合、採番簿が削除されます。管理していた連番の値も削除されます。

採番リセット周期を設定する/しないの変更

繰り返しの毎年/毎月/毎日の変更

月/日の変更

- コピー新規
 - 当該採番定義の情報を複製して、新たに採番定義を作成できます。
 - 複製する情報は以下の通りです。
 - 採番定義名
 - 説明
 - 採番定義カテゴリ
 - 採番形式
 - 採番リセットスケジュール



コラム

アプリケーションのリソースとして管理されている採番定義の場合

コピー新規した採番定義はアプリケーションのリソースには含まれません。

作成時に戻る、または作成後は採番定義一覧へ遷移します。

- 削除
 - 採番定義の削除ができます。
 - 採番簿の削除ができます。

採番の取得

採番簿から採番を取得します。

- 当該機能の詳細は「[IM-LogicDesigner仕様書](#)」を参照してください。

採番のリセット

採番簿の連番の値を設定します。

- 当該機能の詳細は「[IM-LogicDesigner仕様書](#)」を参照してください。

採番定義一覧

採番定義の一覧を参照できます。

カテゴリの登録、更新、削除ができます。



コラム

採番定義一覧へのアクセス

採番定義一覧は2023 Autumn(Hollyhock)時点ではサイトマップ、グローバルメニューは提供しません。
採番定義一覧を利用する場合は、以下のURLからアクセスしてください。

`http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/lowcode_utilities/autonumbering/list`

ログ管理機能

システムログ・リクエストログ情報をデータベースに出力します。

ログ管理機能では、Accel Studio に紐づくリソースのログ情報を閲覧できます。

アプリケーションからリソースの紐づけを解除した場合は、一覧画面から対象のログ情報が表示されなくなります。

ログ情報の保存処理はログ情報をスタックした上で、データベースに書き出します。サーバの停止待機時間を短くしている場合、または即時終了するように設定している場合は、ログ情報出力が正常に動作しない可能性があります。

スタックするログ件数の設定方法の詳細は「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[データベース出力用ログ情報設定](#)」を参照してください。

ログ情報の取得値の最大値を設定できます。

取得上限基準値の設定方法の詳細は「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[Low-codeユーティリティ設定](#)」を参照してください。

- システムログ管理機能
 - 出力対象となる処理
 - システムログ管理機能が扱う情報
 - システムログ一覧画面
 - システムログ詳細
 - システムログの出力設定
 - システムログの削除
- リクエストログ管理機能
 - 出力対象となる処理
 - リクエストログ管理機能が扱う情報
 - リクエストログ一覧画面
 - リクエストログ詳細
 - リクエストログの出力設定
 - リクエストログの削除

システムログ管理機能

システムログ管理機能は Accel Studio に紐づく、IM-Workflow、IM-LogicDesigner のシステムログ情報を閲覧できます。

出力対象となる処理

各製品のログ保存対象は下記のとおりです。

IM-Workflow は「案件終了処理」「到達処理」「ユーザ展開タスク」で発生するログ情報を保存します。

IM-LogicDesigner はフロー内で発生するログ情報と「ログ出力タスク」で出力されるログ情報を保存します。

Accel Studio の管理画面からの遷移時のログ一覧画面ではアプリケーションに紐づくすべてのシステムログ情報を表示します。

当該アプリケーションで管理しているリソースが他のアプリケーションに紐付けられている場合は、他のアプリケーションの実行時に出力されたログ情報についても表示します。

また、アプリケーションから紐づけを解除したログ情報に関しては、一覧画面から表示されなくなります。

システムログ管理機能が扱う情報

システムログは下記の情報を管理します。

imtn_system_log

カラム名	データ型	説明	主キー	NOT NULL制約
system_log_id	文字列	ログ単位の一意となるIDです。	●	●
request_id	文字列	リクエストID		
product_category	文字列	製品カテゴリ		●
product_resource_id	文字列	IM-Workflow の場合は、 フローID IM-LogicDesigner の場合は、 フロー定義ID		
logger_name	文字列	ロガー名		●
log_level	文字列	ログレベル		●
log_message	文字列	ログメッセージ		
log_message_key	文字列	ログメッセージ		
stack_trace	バイナリ	スタックトレース		
execute_user_cd	文字列	実行ユーザID		
execute_date	日時	実行日時		●
reserved01	文字列	IM-Workflow の場合は、 システム案件ID IM-LogicDesigner の場合は、 タスクID		
create_user_cd	文字列	作成者コード		●
record_user_cd	文字列	更新者コード		●
create_date	日時	作成日時		●
record_date	日時	更新日時		●

システムログ一覧画面

システムログ一覧画面から、閲覧、検索ができます。

一覧に表示される情報は以下のとおりです。

- 実行日時
- リクエストID

- ログレベル
- 実行ユーザ
- 製品カテゴリ
- フローID
- ログメッセージ
- ログメッセージキー

システムログ詳細

システムログ一覧画面の表示項目に加えて、以下の情報を表示します。

- スタックトレース

システムログの出力設定

ログ出力設定を行います。ログ出力時のスタック量、製品カテゴリ、ログレベル毎に出力するかどうかを設定できます。システムログのデータベース出力用ログ情報設定の詳細は「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[データベース出力用ログ情報設定](#)」を参照してください。

システムログの削除

各種製品でデータベースへ出力されたシステムログ情報を削除します。ジョブ機能の詳細は「[ジョブ・ジョブネットリファレンス](#)」 - 「[データベースのシステムログ削除](#)」を参照してください。

リクエストログ管理機能

リクエストログ管理機能は Accel Studio に紐づく、IM-BloomMaker、IM-LogicDesigner のリクエストログ情報を閲覧できます。

出力対象となる処理

IM-BloomMaker、IM-LogicDesigner のルーティング定義のREST APIが呼び出された際に、リクエストログを保存します。

Accel Studio の管理画面からの遷移時のログ一覧画面ではアプリケーションに紐づくすべてのリクエストログ情報を表示します。

当該アプリケーションで管理しているリソースが他のアプリケーションに紐付けられている場合は、他のアプリケーションの実行時に出力されたログ情報についても表示します。

また、アプリケーションから紐づけを解除したログ情報に関しては、一覧画面から表示されなくなります。

リクエストログ管理機能が扱う情報

リクエストログは下記の情報を管理します。

imtn_request_log

カラム名	データ型	説明	主キー	NOT NULL制約
request_log_id	文字列	ログ単位の一意となるIDです。	●	●
request_id	文字列	リクエストID		●
http_status	数値	HTTPステータスコード		●
http_method	文字列	HTTPメソッド		●

カラム名	データ型	説明	主キー	NOT NULL制約
process_time	数値	HTTPステータスコード		●
logger_name	文字列	ロガー名		●
log_level	文字列	ログレベル		●
product_category	文字列	製品カテゴリ		●
product_resource_id	文字列	ルーティングID		●
execute_user_cd	文字列	実行ユーザID		●
execute_date	日時	実行日時		●
request_url	文字列	リクエストURL		●
referer	文字列	リクエスト発生元URL		
session_id	文字列	セッションID		
ip_address	文字列	リモートアドレス		
remote_host	文字列	リモートホスト		
user_agent	文字列	ユーザエージェント		
request_query_string	文字列	クエリ文字列		
input_value	バイナリ	入力値		
create_user_cd	文字列	作成者コード		●
record_user_cd	文字列	更新者コード		●
create_date	日時	作成日時		●
record_date	日時	更新日時		●



注意

入力値に保存される情報

- IM-BloomMaker の場合は、画面に連携されるリクエストパラメータを保存します。
- IM-LogicDesigner の場合は、フロー定義に設定されている入力値に合致するリクエストパラメータを保存します。

リクエストログ一覧画面

リクエストログ一覧画面から、閲覧、検索ができます。

一覧に表示される情報は以下のとおりです。

- 実行日時
- リクエストID
- ステータスコード
- 処理時間
- 実行ユーザ
- リクエストURL
- クエリ文字列
- HTTPメソッド
- リクエスト発生元URL
- 製品カテゴリ

- ルーティングID
- リモートホスト
- IPアドレス
- セッションID
- ユーザエージェント

リクエストログ詳細

リクエストログ一覧画面の表示項目に加えて、以下の情報を表示します。

- 入力値

リクエストログの出力設定

ログ情報出力設定を行います。ログ出力時のスタック量、製品カテゴリ、ログ項目毎に出力するかどうかを設定できます。リクエストログのデータベース出力用ログ情報設定の詳細は「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[データベース出力用ログ情報設定](#)」を参照してください。

リクエストログの削除

各種製品でデータベースへ出力されたリクエストログ情報を削除します。ジョブ機能の詳細は「[ジョブ・ジョブネットリファレンス](#)」 - 「[データベースのリクエストログ削除](#)」を参照してください。

業務テンプレート

業務テンプレートとはAccel Studioで提供するアプリケーションの雛型となる情報を内包する定義情報です。業務テンプレートを利用してアプリケーションを構成するロジックや画面などを自動で生成できます。

業務テンプレートの種類

- Accel Studio標準のテンプレート
 - 製品標準、サービスまたは追加モジュールで提供するテンプレートです。
 - Accel Studio標準のテンプレートに関する詳しい情報は「[Accel Studio テンプレートカタログ](#)」を参照してください。
- ユーザが作成したテンプレート
 - ユーザがAccel Studioアプリケーションを元に作成したテンプレートです。
 - この章では、ユーザが作成したテンプレートに関する内容について説明します。

ユーザが作成したテンプレートが扱う情報

ユーザが作成したテンプレートが扱う情報は以下の通りです。

- **テンプレートID**
 - テンプレートを一意に識別するためのIDです。
- **テンプレート名**
 - テンプレートの名前です。
- **テンプレートデータ**
 - アプリケーションを構成するロジックや画面などの雛型となる情報です。この情報を修正、削除することはできません。
- **説明**
 - テンプレートの内容に関する説明です。
- **ソート番号**

- テンプレートを表示する際のソート番号です。テンプレート一覧画面でソート番号が昇順となるように表示されま
す。

ユーザが作成したテンプレートの操作

- 作成
 - テンプレート作成機能を利用して作成可能です。
 - アプリケーションを元に業務テンプレートを作成できます。
- 更新
 - 業務テンプレート一覧画面からテンプレートを更新できます。
 - テンプレート名、説明、ソート番号の更新が可能です。
- 削除
 - 業務テンプレート一覧画面からテンプレートを削除できます。
 - テンプレートを削除しても、削除するテンプレートから作成したアプリケーションは削除されません。
 - テンプレートを削除しても、元となるアプリケーションは削除されません。



コラム

アプリケーションに紐づいているリソースのバージョン情報は全てテンプレート化されます。
不要なバージョン情報はテンプレート作成前に削除してください。



注意

Accel Studio標準のテンプレートを修正、削除することはできません。

テンプレート化対象定義一覧

テンプレートを作成する際、アプリケーション内の定義情報はテンプレートデータとして登録されます。
アプリケーション作成時に、IDと各定義の参照情報は新しいIDに置換され、新しい定義として作成されます。

モジュール名	定義	対象	紐付いている定義	対象
IM-BloomMaker	コンテンツ定 義	ID		
		画面	IM-LogicDesigner フロー定義	フロールーティング○にリクエ ストを送信する
			ViewCreator ルーティング定義	ルーティング○にリクエストを 送信する
	ルーティング 定義	ID		
		URL		
		コンテンツ	IM-BloomMaker コンテンツ定義	
IM-LogicDesigner	フロー定義	ID		
		フロー	IM-LogicDesigner フロー定義	フロー呼び出し
			IM-LogicDesigner フロー定義	ユーザ定義タスク
			IM-Repository エンティティ定 義	エンティティ操作タスク
		ユーティリティ 採番定義	採番取得、採番リセット	
	ルーティング 定義	ID		

モジュール名	定義	対象	紐付いている定義	対象
		ルーティン グ(URL)		
		認可URI		
		対象フロー	IM-LogicDesigner フロー定義	
	トリガ定義	ID		
		対象フロー	IM-LogicDesigner フロー定義	
	ユーザ定義タ スク	ID		
ViewCreator	データ参照	データ参照 コード		
		対象クエリ	ViewCreator クエリ	
	クエリ	クエリコー ド		
	ルーティング 定義	ルーティン グID		
		ルーティン グURI		
		対象クエリ	ViewCreator クエリ	
		認可URI		
IM-Workflow	ワークフロー 定義	ID		
		コンテンツ ID		
		ルートID		
		フローID		
		フロー設 定・画面	IM-BloomMaker ルーティング定 義	画面コンテンツ/URLを利用
		フロー設 定・処理	IM-LogicDesigner フロー定義	ロジックフローを利用
		フロー設 定・画面	IM-BloomMaker ルーティング定 義	画面コンテンツ/URLを利用
		ノード情 報・処理	IM-LogicDesigner フロー定義	アクション処理
			IM-Workflow ルート定義	テンプレート置換ノード
			IM-Workflow ルール定義	条件分岐
	案件プロパ ティ定義	キー		
	ルール定義	ID		
		条件値	IM-Workflow 案件プロパティ定 義	
	メッセージ定 義	ID		
		フロー定義	IM-LogicDesigner フロー定義	配信メディア: LogicDesigner

モジュール名	定義	対象	紐付いている定義	対象	
IM-Repository	エンティティ	ID			
		エンティティ項目	IM-Repository 辞書項目		
		エンティティ関連	IM-Repository エンティティ		
		テーブル名			
		参照項目設定	IM-Repository 辞書項目	他のエンティティを参照先とする場合	
			IM-Repository エンティティ	他のエンティティを参照先とする場合	
		検索条件	IM-Repository エンティティ		
		辞書項目	ID		
			エイリアス	IM-Repository 辞書項目	
			列挙型	IM-Repository 辞書項目	
列挙型	ID				
ユーティリティ	採番定義	ID			

テンプレートに含まれる定義情報

テンプレート作成時に、元となるアプリケーション内の定義情報は、以下のどちらかを選択してテンプレートに取り込まれません。

※ ここで記述している「定義情報」とは、アプリケーションに紐づくリソース（例：IM-LogicDesigner フロー定義）と、リソースに内包される定義情報（例：IM-LogicDesigner ユーザ定義）を指します。

詳しい内容は、「[リソース情報詳細](#)」を参照してください。

- アプリケーション作成時に定義情報を複製する
 - 定義情報が、アプリケーション作成の度に複製されるようにしてテンプレートに含めます。テンプレート作成画面において、「複製」のチェックをつけたままにしてください。
- アプリケーション作成時に定義情報を複製せず、「共通定義」とする
 - 元となるアプリケーションの定義情報をそのままテンプレートに取り込みます。アプリケーション作成時にIDの置換などは行われません。複数のアプリケーションを跨って定義情報が利用されることを想定しています。テンプレート作成画面において、「複製」のチェックを外してください。

以下はテンプレート作成からアプリケーション作成までの「定義情報」の一例です。

1. 元となるアプリケーションは以下の通りです。
 - アプリケーションA
 - IM-LogicDesigner フロー定義A
 - IM-LogicDesigner フロー定義B
2. アプリケーションA をテンプレート化します。ここで、フロー定義B は「共通定義」とします。
3. 作成したテンプレートから アプリケーションB を作成します。作成したアプリケーションに含まれる定義は以下の通りです。
 - アプリケーションB
 - IM-LogicDesigner フロー定義A コピー

- IM-LogicDesigner フロー定義B

フロー定義A は アプリケーションB が作成される時点で複製され、アプリケーションB には別の定義として登録されます。一方、「共通定義」とした フロー定義B は アプリケーションA、アプリケーションB の両方に含まれます。



コラム

定義情報をテンプレートに含めたくない場合は、テンプレート作成前にアプリケーションから紐付けを解除してください。



注意

定義情報を「共通定義」とした場合の動作について

アプリケーション作成時に、共通定義が環境に存在しない場合は新規作成されます。

アプリケーション作成時に、テンプレート作成時点の定義情報で上書きインポートされるため、注意してください。